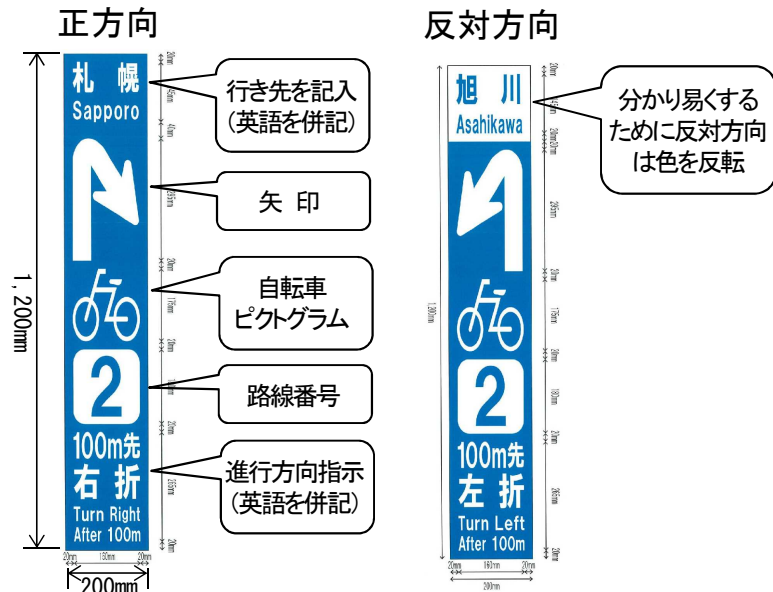


河川管理用通路における案内表示について

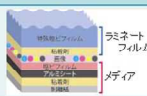
案内路面表示(河川管理用通路) ①デザイン(案)

- 河川堤防での実証実験等の結果を踏まえ、基本的な考え方を次のようにまとめた。
- 基本的には一般道における路面表示に準拠するが、河川管理用通路沿いには目印となる施設や案内看板等が少なく、道に迷いやすいため、上下に「行先(または経由地)」と「左・右折」等のコメントを追加する。
- 行き先は、一般人に分かり易い主要な都市名や観光地・施設名等とする。
- 同一の路面を双方向のルート設定の場合は、道幅が狭く両方向の案内表示が同時に視野に入ることから、視覚的にも分かり易くするために、反対方向の行き先表示の色を反転する。
- 河川管理用通路上では縦1,200mm×横200mmで十分な視認性が得られたため、下記の仕様を原則とする。
- 河川管理用通路の坂路等には、鋭角、鈍角に曲がる箇所が多いため、これらのデザインを追加した。

▼案内路面表示の大きさ



▼案内路面表示の仕様

項目	仕様
素材	①下層(メディア) 耐候塩ビ/アルミ 白グロス 強粘着 ②上層(ラミネートフィルム) 特殊塩ビ エンボスマット 
外寸	縦1200mm×横200mm※2
色番(青色)	マンセル値10B5/10(日本塗料工業会 色見本近似値: 69-50T)
フォント	HGS創英角ゴシックUB

▼案内路面表示のデザイン

順方向へ行く表示(13パターン)



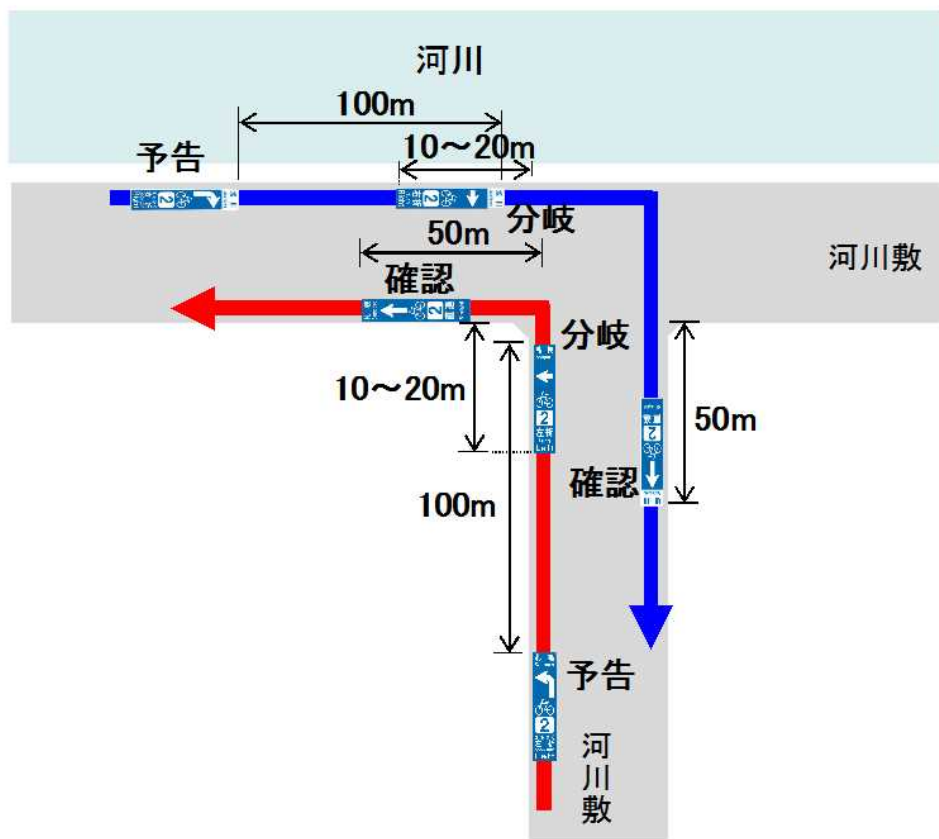
逆方向へ行く表示(13パターン)



案内路面表示(河川管理用通路) ②平面設置位置(案)【河川管理用通路内の移動】

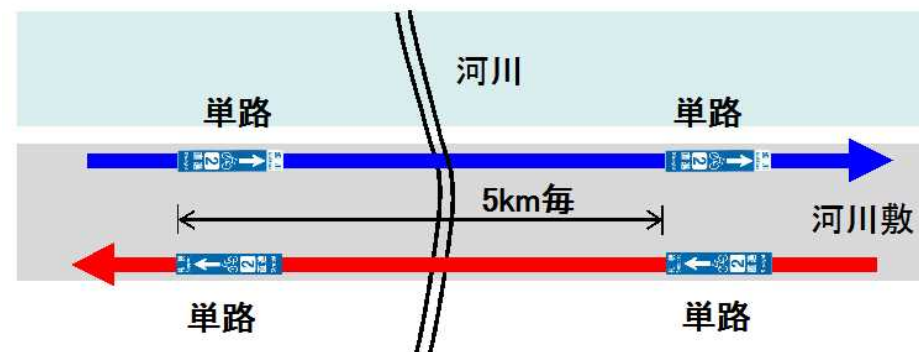
- 縦断的な設置位置(河川管理用通路内の移動)の基本的な考え方として、6パターンを設定した。
- パターン1 河川管理用通路内の「分岐」を表す路面表示は、交差点から10m~20mに設置する。「予告」を表す路面表示は、分岐の手前100m以内に設置する。「確認」を表す路面表示は、分岐後の50m以内に設置する。
- パターン2 河川管理用通路の単路部(5km以上):しばらく分岐がない区間では、5km程度毎に直線を表す路面表示を設置する。
- パターン3 河川管理用通路内の分岐で直進する(分岐のところに直進の案内):パターン2に関連し、5km未満に他の分岐がある場合には、誤って分岐しないように直線を表す路面表示を設置する。

▼パターン1 分岐で曲がる(予告・分岐・確認)



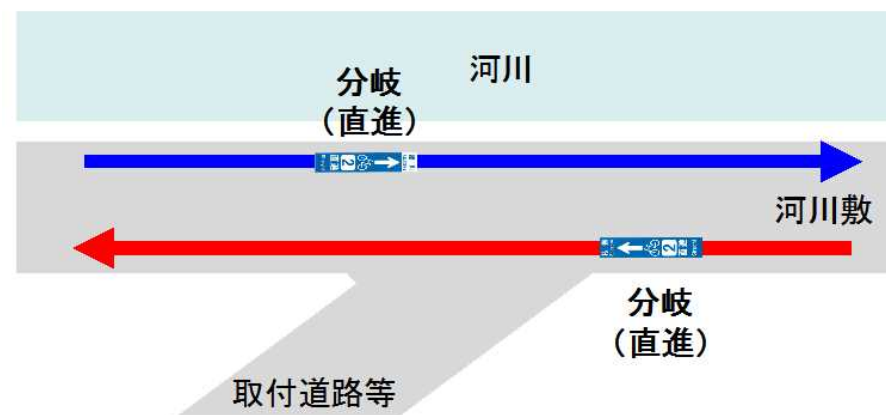
※H30自転車実走調査でのモニター 回答結果に準拠

▼パターン2 単路部の設置間隔(5km以上)



※H30自転車実走調査でのモニター 回答結果に準拠

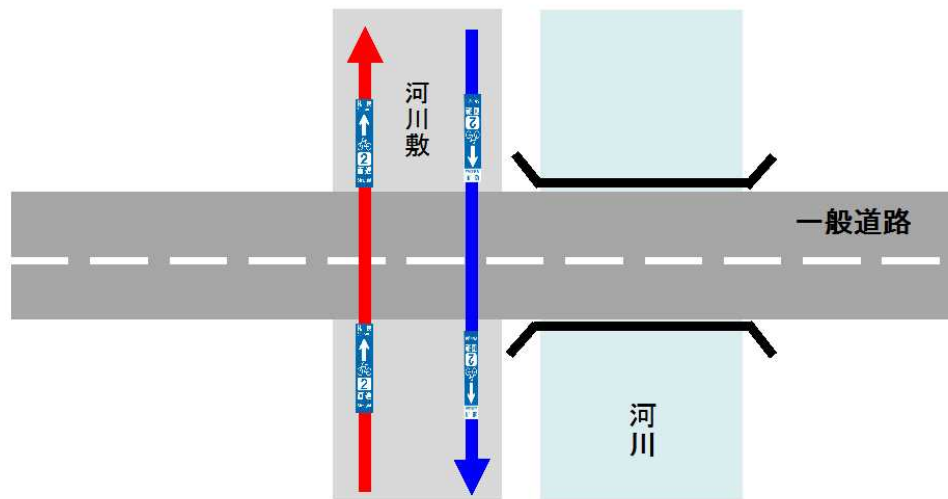
▼パターン3 取付道路等がある単路部を直進する(交差点に直進の案内)



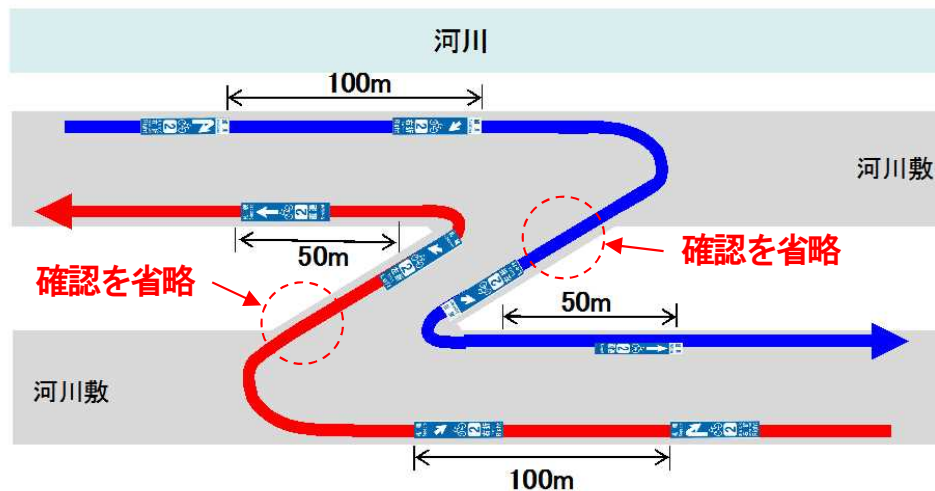
案内路面表示(河川管理用通路) ③平面設置位置(案)【河川管理用通路内の移動】

- パターン4 一般道路を横断:一般道路を横断する場合は、誤って分岐しないように交差部の前後に直進表示を設置する。
- パターン5 坂路等分岐が近接する区間:分岐が接近して、分岐以外の表示を設置すると利用者が混乱するような場合は、「予告」「確認」を省略することができる。
- パターン6 ルートが分岐する:2ルート以上に分岐する場合は、それぞれの表示を並列に設置する。

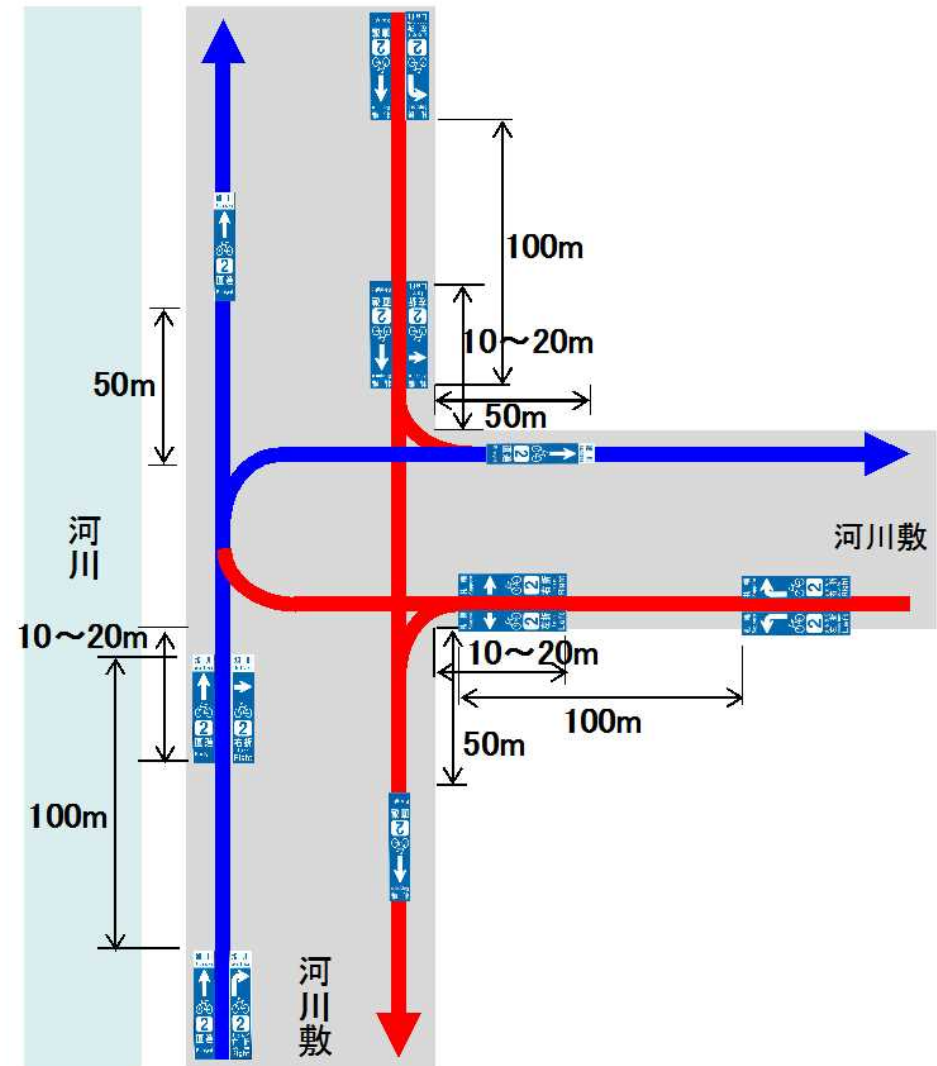
▼パターン4 一般道路を横断



▼パターン5 坂路等分岐が近接する区間



▼パターン6 ルートが分岐する

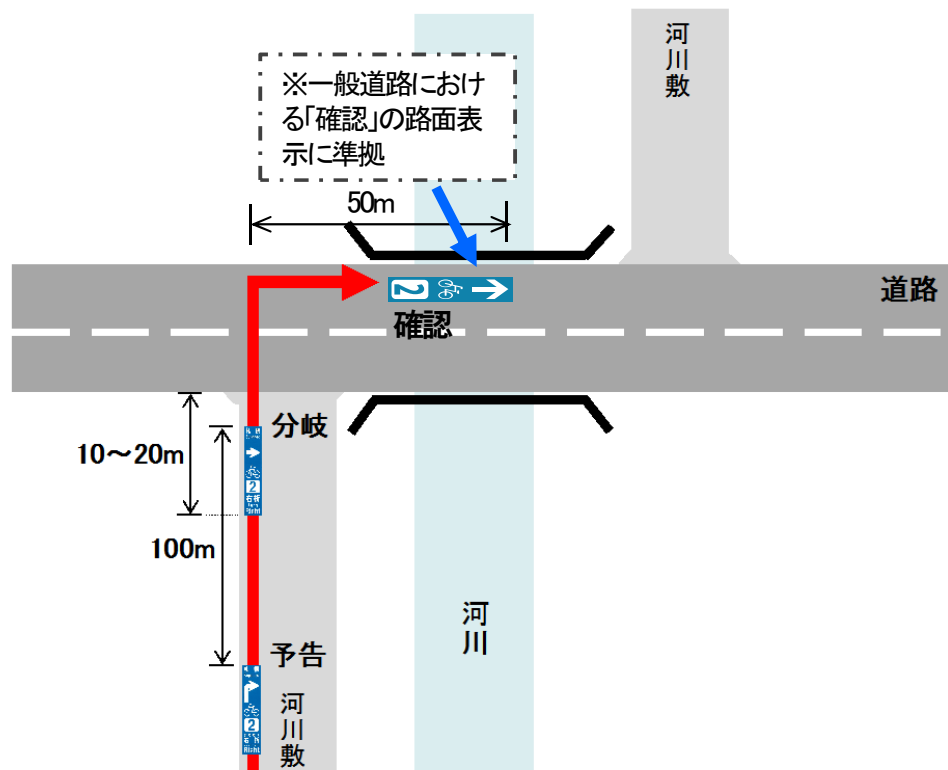


1.案内路面表示(河川管理用通路) ④平面設置位置(案)【河川管理用通路⇔一般道路】

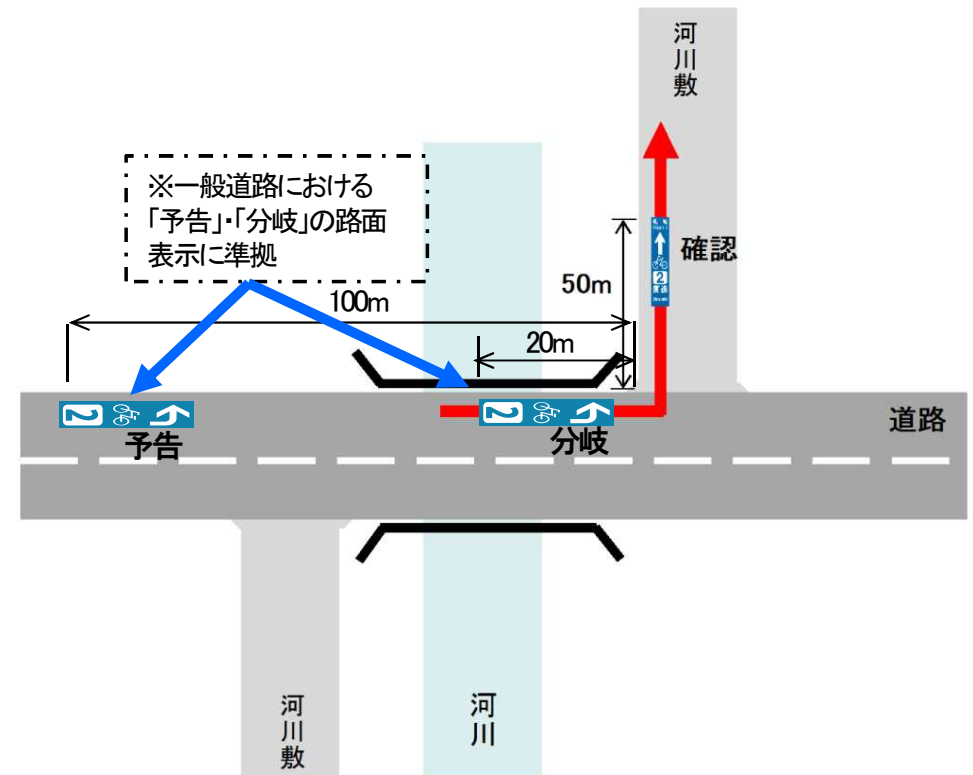
- 縦断的な設置位置(河川管理用通路⇔一般道路)の基本的な考え方を、2パターンを設定した。
- パターン1 【河川道路→道路】へ曲がる(予告・分岐):「分岐」を表す路面表示は、交差点の直近の河川敷に設置する。
分岐部の「予告」を表す路面表示は、分岐から100m手前に設置する※。
- パターン2 【道路→河川道路】へ曲がる(確認):分岐後の「確認」を表す路面表示には、交差点の直近から、50mの河川敷に設置する※。

※H30自転車実走調査でのモニター 回答結果に準拠

▼パターン1 【河川管理用通路→道路】へ曲がる(予告・分岐)



▼パターン2 【道路→河川管理用通路】へ曲がる(確認)



1.案内路面表示(河川管理用通路) ⑤横断設置位置(案)と矢羽根表示

- 横断的な設置位置は舗装幅に関わらず、舗装端からの離れは一定に保つ。
- 路面表示の中心は、舗装端から0.8mとする。

横断的な設置位置の基本的な考え方

河川管理用通路は、基本的に道路交通法の対象となると考えられるため路面表示の設置位置には道路構造令による道路利用者の基本的な法を参考に舗装端から1.25mと0.8mの2ケースについて現地検証を行った。

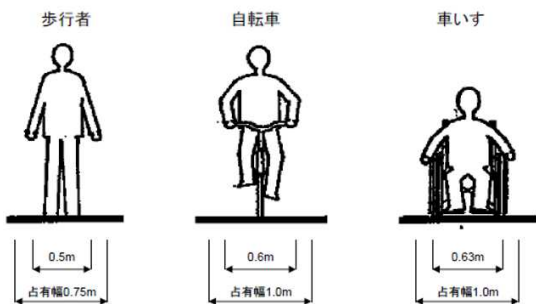
☆結 果

- ①道路舗装幅3.5mで舗装端から1.25m離れの場合は、上り下りの表示が接近しすぎて好ましくない。
- ②舗装端からの離れは舗装幅に関係なく一定に保つ。
- ③貼付位置は舗装端から0.8mとする。

▼横断的な設置位置(基本形)



▼道路利用者の基本的な寸法



- 河川管理用通路上では矢羽根による路面表示は実施しない。

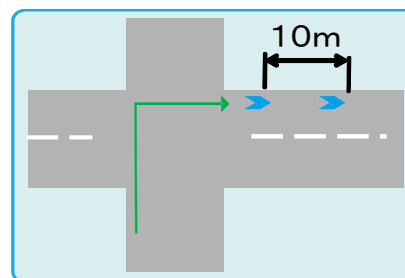
表示をしない理由

河川管理用通路の案内表示は、ルートの方角を示し迷走を防止することが主目的であり、走行位置を規定するものではないことから、矢羽根による路面表示は行わないこととした。

▼一般道における取組事例

「交差点」での設置

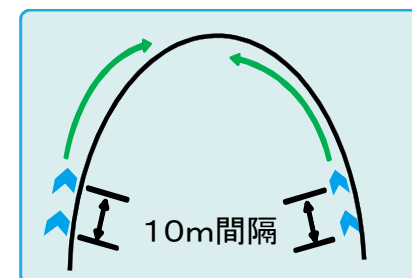
国道×道道以上の交差点の分岐後に10m間隔で矢羽根を2個以上設置。



■交差点における路面表示
(トカプチ400 中札内村 国道236号)

「急カーブの手前」での設置

急カーブの手前では、10m間隔で矢羽根を2個以上設置(曲線半径が160m未満の場合、車線幅員の拡幅が必要な規定に準拠し、R<160を急カーブと定義【道路構造令】)



■急カーブ手前における路面表示
(トカプチ400 浦幌町 国道336号)

【参考】案内路面表示(河川管理用通路) 実証実験概要

○河川管理用通路では、舗装幅が3～5m程度と狭い路面を、正方向・反対方向へ向かうサイクリストがすれ違うこととなり、両方向の路面表示が同時に視界に入るためにサイクリストが混乱することが懸念される。

⇒ このため、両表示に行き先(英語を併記)を記入した新たなデザインを検討。

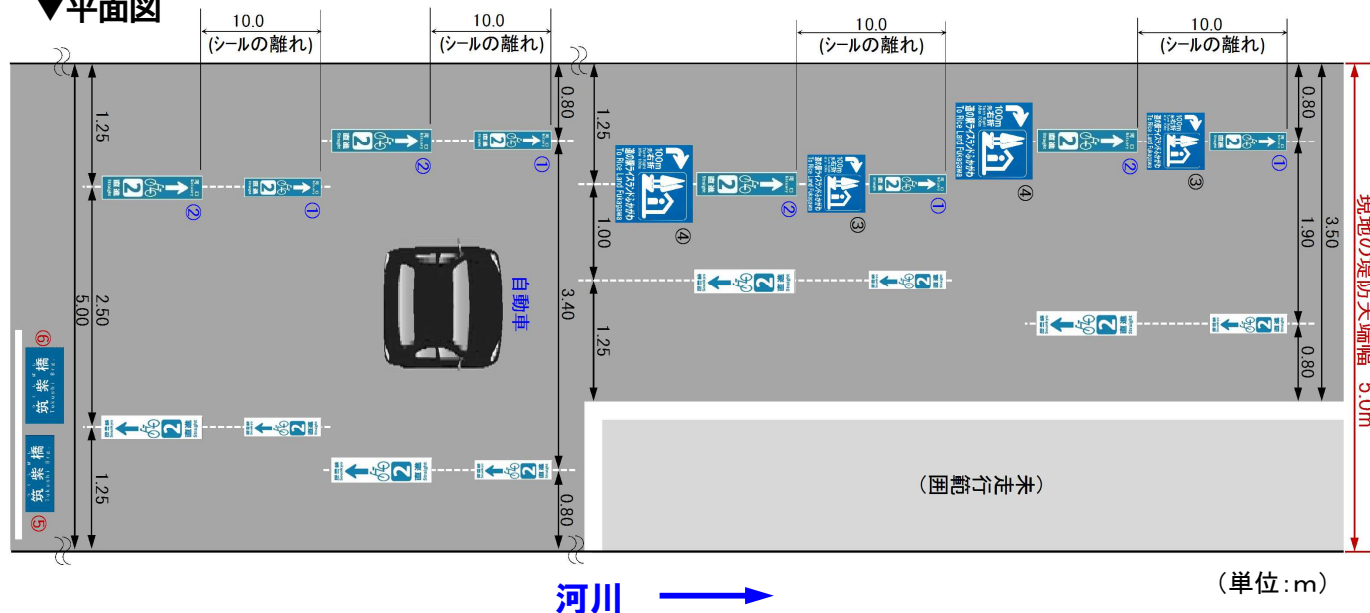
○平成30年11月5日、雨竜川の堤防天端において、河川管理用通路における路面表示の実証実験を実施。

○石狩川流域圏会議サイクリング検討ワーキンググループの委員等サイクリスト 8名で現地確認後、意見集約を行った。

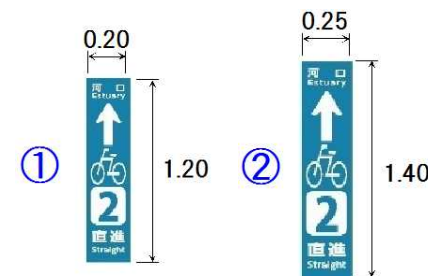
■実証実験内容

雨竜川右岸 和築堤(北竜町)

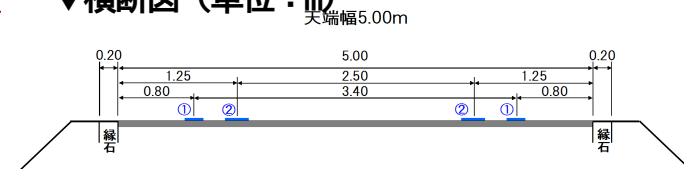
▼平面図



▼路面表示の寸法 (単位: m)



▼横断図 (単位: m)

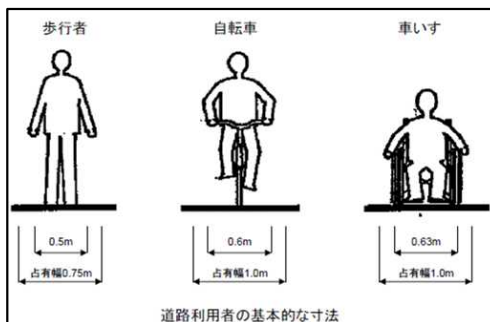


▼堤防天端からの離れの設定パターン

堤防天端舗装幅	舗装端からシール中心まで
【A】約3.5m	①0.80m ②1.25m
【B】約5.0m	①0.80m ②1.25m

▼実証実験での離れの設定根拠

歩行者の身幅0.50+(自転車の身幅0.60/2)=0.80m
歩行者の占有幅0.75+(自転車の占有幅1.00/2)=1.25m



▼実証実験の開催状況



試走の状況(雨竜川和築堤)



検証会議(試走後)

【参考】案内路面表示(河川管理用通路) 実証実験結果

- 意見集約の結果、案内路面表示の寸法は縦1,200mm×横200mmで良いとの意見が多数であった。
- また、貼付位置は舗装端からの離れ0.8mが良く、舗装幅員によらず貼付位置は一定の方が良いとの意見が多数を占めた。
- 路面案内表示のデザインでは行き先、直進、左右折について文字の追記をした方が適当であるとの意見を得た。
- 対面の路面表示として色を反転させたデザインについては、一般道における案内表示との違和感が指摘され、見直しの必要があるという結果となった。
- ただし、路面表示に記載する行き先は、馴染みやすい都市名等の方が良いとの意見が得られた。

■試走者へのアンケート調査結果

▼ルート方向案内表示の貼付位置

舗装幅	評価項目		舗装端からの離れ 0.8m		舗装端からの離れ 1.25m	
			シール寸法 1.2×0.2m	シール寸法 1.4×0.25m	シール寸法 1.2×0.2m	シール寸法 1.4×0.25m
舗装幅 3.5m の場合	見やすさ		25	23	11	12
	走行性	自転車のみの場合	22	16	6	5
		車が走っていると仮定した場合	19	13	5	4
		人が歩いていると仮定した場合	20	14	11	8
	総合評価		22	18	4	4
舗装幅 5.0m の場合	見やすさ		22	21	21	18
	走行性	自転車のみの場合	19	18	16	10
		車が走っていると仮定した場合	16	16	11	7
		人が歩いていると仮定した場合	19	13	16	12
	総合評価		20	18	13	8
舗装幅に よって	端からの離れを変えた方が良い		6			
	端からの離れは常に一定の方が良い		21			

▼ルート方向案内表示のデザイン

チェック項目		適否評価
①	進行方向（河口or層雲峡）がわかるように文字を追加	19
②	進路（直進、右折等）がわかるように文字を追加	22
③	逆方向（河口→層雲峡）色を反転させたデザイン	11

※アンケートの評価については、3段階とし「○:3点」、「△:1点」、「×:0点」として足し合わせた評価とした(各項目は27点満点)また、表中赤字は横並びで比較した中で最高点を示す。